



水の学校

武蔵野市 水環境連続講座

News Letter 5

2015年1月発行
発行元：「水の学校」事務局
tel：0422-60-1867
http://www.city.musashino.lg.jp

facebook「武蔵野 水の学校」
最新情報配信中！

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは？

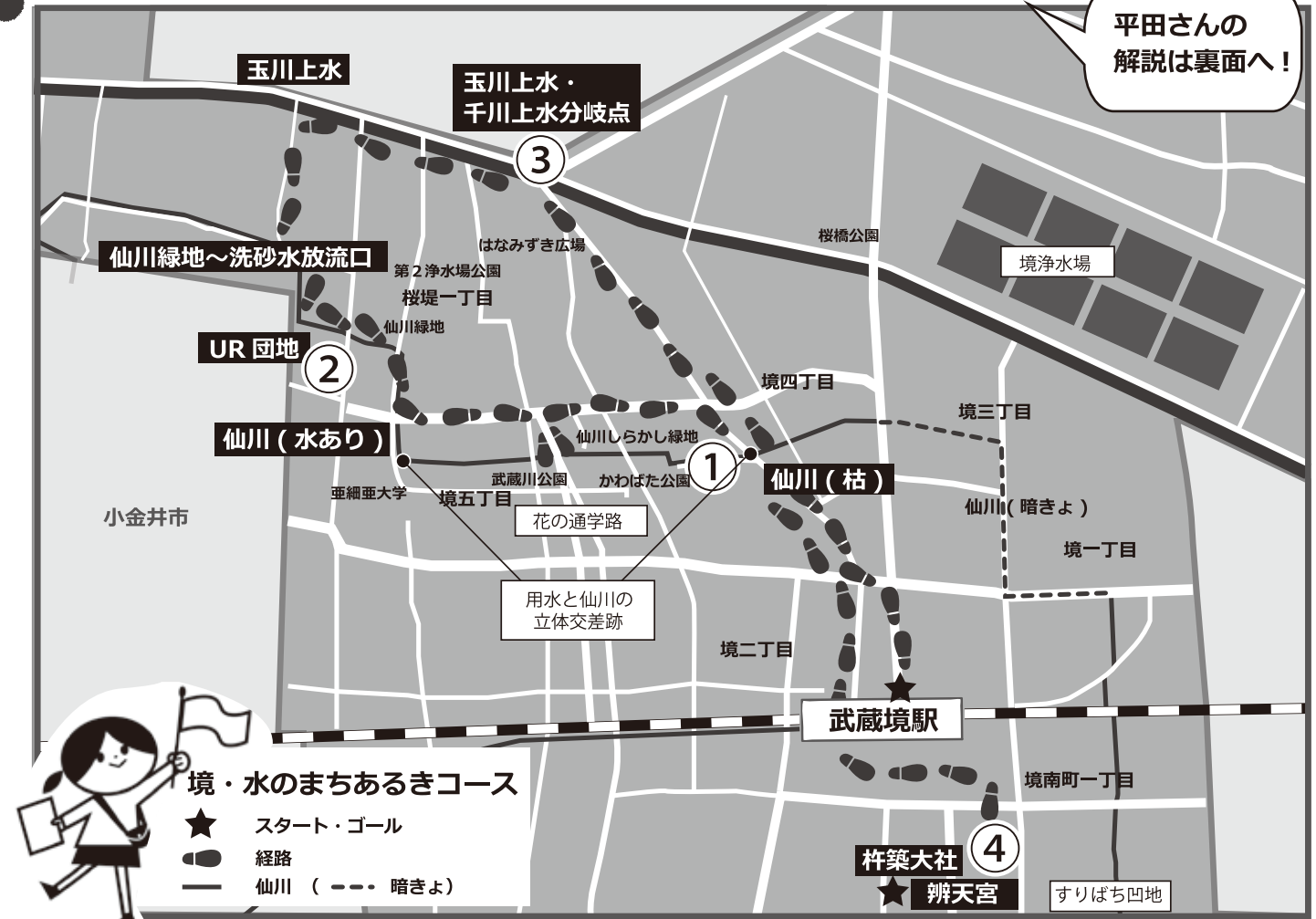
「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える7回連続のシリーズ講座です。くらしの中の身近な水循環、上下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。

連続講座レポート 第5回 むさしのの今昔をめぐる～水のまちあるき

11/15(土)の連続講座第5回は、「むさしのの今昔を巡る～水のまちあるき」を実施しました。石神井川沿いの地形や水路等に精通し、長年まちあるきを行っていらっしゃる「やとじい」こと平田英二さんを講師に迎え、武蔵野市の水環境の変遷を見て歩きました。受講生にオブザーバー、スタッフを加え、参加者は40名近くの大所帯となりました。お天気にも恵まれ、平田さんのお話をうかがいながら、地元の歴史や地形を再発見することができました。

武蔵境駅周辺の水の歴史や地形を感じるスポットをめぐるしました！

平田さんの解説は裏面へ！



① 仙川 ▶▶▶ ② 仙川リメイク ▶▶▶ ③ 玉川上水・千川上水分岐点 ▶▶▶ ④ 桝築大社

市内唯一の一級河川で、全長は約20km。小金井市から始まり武蔵野市内を通って世田谷区で野川に合流します。市内では涸れ川になっている場所もあります。

桜堤地域では、緑豊かな水辺環境の再生が進められており、境浄水場の洗砂水※やUR団地でためた雨水などが放流され、水に親むことができます。
※浄水場で使用する過用の砂を洗うために使用した水

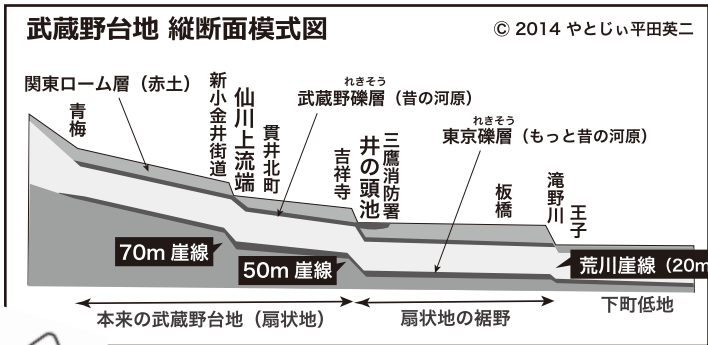
千川上水はここから五日市街道沿いを北東へ向かいます。かつてここには「水衛所」が置かれ、上水の点検や清掃を行っていました。

周辺は、市内にいくつもある「すりばち凹地」の一つです。周りよりも標高が低いため、雨が降ると水がたまりやすいといわれます。地形を知ると水の道が見えてきますね！

武蔵野市は、武蔵野台地のほぼ中央

今から13~12万年前、関東地方は全て海でした。その後、寒冷化につれて海が後退し扇状地が形成されていきました。およそ10万年前にはかつての海岸線だった「70m 崖線（がいせん）」の下から水が湧き、仙川や石神井川、野川などができました。9万年前にやや遅れて「50m 崖線」の下から神田川、善福寺川などが誕生しました。

現在の武蔵野市は、50m 崖線と70m 崖線の間に位置する比較的乾燥した土地なのです。



武蔵野台地の水の道とまちの成り立ち

昔の海岸線だった「崖線」の下の湧水池からは、野川や仙川といった中規模河川が流れ出ています。50m 崖線下の代表的な湧水池としては、井の頭池、善福寺池、三宝寺池などがあげられますが、70m 崖線から流れ出る川はほとんどが涸れてしまったか極めて水量が少なくなっています。

また、玉川上水をはじめ人為的に掘削した水路・水路跡も多くあります。「用水は背を引く」と言われ、比較的標高の高い稜線に引かれた用水から、両側の谷に分水が引かれ、自然に水が流れ出るように設計されていました。玉川上水から分水された千川上水、野火止用水などがその例で、境地域を歩くと玉川上水に向かって少し登り加減になっていることがよくわかります。江戸時代の新田開発は分水路に沿って進められました。現在の地図からも玉川上水を軸にくしの歯のように街区が分かれているのを見て取ることができ、水の流れとまちの成り立ちの深い関わりを感じることができます。

受講生の声より

- 私のよく知っている所、よく通る所を歩きましたが、こんな所に水が通っていたのかとあらためて知りました。
- 地形を逆手にとった雨水利用や洗砂水の再利用により涸れ川を防いでいるなど驚きがいっぱいだった。
- 子どもの頃から仙川は不思議な川でした。小金井・武蔵野・三鷹・調布、どこへ行っても仙川があるのです。それもかなり雁行しています。今日は少し謎が解けた気がします。
- 川の生成歴と水源とのかかわりと…人の生活と深く関係している事を知り有意義でした (川の立体交差、洗砂水の活用等)。

- 何となく通っていた道。水と関係が深かったのだ。身近なことがわかって良かった。
- 地形と地名の関係を知れてよかった (クボとヤト)。
- 昔から脈々と続いている人の水系に対する努力・改良が現在の社会の発展につながっているのですね。水行政の大切さをあらためて考えます。
- UR の団地の仙川、費用と手間をかけて水の流れを復活させるのは何故? と思っていたが、最後に「それが人と人をつなぐコミュニティを産み出していく」との話で納得しました。

水コラム no.5: 武蔵野市内のすりばち凹地くぼち~地形と防災

地面が周囲に比べて、すりばちの底に向かうようにゆるやかにくぼんでいる地形を「すりばち凹地」と呼び、このような地形は標高 50~60m 辺りの台地上に多く見られます。市街化が進み、地形の高低差を意識することが少ない武蔵野市域でも、すりばち凹地の地形を確認できる場所がいくつもあり、実際に歩いてみるとアップダウンがよりはっきりと感じられます。

凹地の底は、水を含んだ帯水層が比較的浅いところにあるため、ところにより泉が湧くこともあります。浅井戸で飲み水が得られるので早くから新田開発が行われ、周囲には集落ができました。一方で、降雨の際には水が集まるため、大雨の後で突然池が出現するという、小平市の「さいかち窪」のような例もあったそうです。

すりばち凹地分布図 (大正~昭和初期の地形図を参考に現状実地調査に基づいて作成)



関連イベントでは、ハザードマップで「浸水予想区域」を学習

11/12 (水) の水の学校関連イベント「ハザードマップを知っていますか? ~今日から始める水害への備え」では、兵庫県・阪神淡路大震災記念人と防災未来センターの平林英二さんを講師に迎え、武蔵野市の地図をつかったDIG (災害図上訓練) を行いました。市街図を使って、自宅や普段よく行く場所、主な道路・線路や施設などを確認した後、ハザードマップを用いて近くの避難場所や避難経路を調べ、避難中に予想される危険についても話し合いました。武蔵野市では浸水被害が起きている地域があるため、市防災課の担当者から家庭内の道具を用いた止水対策も紹介されました。